認知症高齢者グループホームいしばし
（別紙4）　　令和　3　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0991600016		
法人名	社会福祉法人関記念栃の木会		
事業所名	認知症高齢者グループホームいしばし		
所在地	栃木県下野市上古山569－1		
自己評価作成日	令和　3年　7月　21日	評価結果市町村受理日	令和4年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1－10－6
訪問調査日	令和4年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日常生活が安全安心に過ごして頂けるよう、個々の個性や習慣を加味してトラブルや危険回避できるよう先を想定した介護に努めている。また、接遇はすべての事に反映されることから毎月、目標を設定して利用者中心の生活支援に努めている。限られた環境の中生活が一元化しないように毎月、月担当者を決め利用者、職員で行事企画を行っている。近々は外部との交流を控えているため、入浴場面で普段との違いを演出した。ご家族様には日々の生活の様子を知っていただきたく各人の「毎日の生活のひとこま」や「いしばし通信」を送付して日々の生活状態をお知らせしている。会う機会が少なくても安心していただけるように努めている。また、近隣に同法人の施設があり、常時、災害時などいろいろな場面で相談、支援を受けることができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は市北部の宇都宮市との境界近くに位置し、緑に囲まれた閑静で落ち着いて暮らせる環境にある。近隣には同法人が運営する特別養護老人ホーム等が複数あり、行事を通じた日頃の交流をはじめ、事務的な支援を受けたり災害時には協力をしあうなど連携が図られている。利用者が発した何気ない一言や様子を毎日書きとめた「毎日の一コマ」を作成し、「いしばし通信」とともに毎月家族に送付するなどして信頼関係の構築に努めている。また身体拘束等のリスクについてアセスメントシートを作成し、家族に説明するとともに確認をとりながら安全安心な生活が送れるよう取り組んでいる。地域との関係性の構築も積極的に行っており、自治会や消防団とは平時から運営推進会議や避難訓練に参加して頂いているほか、緊急連絡網に入ってもらったり、避難した利用者の見守りを行って頂く等協力関係を築いている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の3つの理念とグループホームのケアの理念を事務所内に掲示して毎朝始業時に全員で唱和することで新たな気持ちで利用者と向き合うように心がけている。	法人の理念とグループホームのケア理念を玄関、事務所内に掲示し唱和している。事業所理念とともに毎月接遇委員会の作成する目標を共有し、自己評価を行うなどして振り返り、日々のケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し広報誌や回覧板を通し地域の情報をご利用者と共有している。近々はコロナ禍で学校、地域に出る機会がなくて大変残念に思う。なじみの理髪店や美容院に出かけている。	コロナ禍以前は近くの小学校の行事に参加したり、避難訓練には地元消防団の多数の参加があった。現在も自治会の廃品回収に協力しているほか、近隣の方が事業所周辺に花を植えてくれたり、栗や筍を持ってきてくれるなど、地域の様々な方との関係性を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近々は実施していないが、施設見学や認知症実践研修の場として受け入れている。電話などで相談があれば支援の実践方法などアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為会議の開催には至ってないが、書面にて関係者に利用者状況やサービスの実際、取り組みについて報告させていただいている。質問や疑問提案については電話や書面で受けるようにしている。	コロナ禍前は家族、地域包括支援センター、市高齢福祉課、民生委員、自治会長の参加を得て開催していたが、現在は書面開催となっている。利用者状況や行事活動、施設運営について委員に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍での状況の報告や法令の変更による取り組み方など確認させていただいている。	コロナの感染防止について担当課に助言をいただいたり、マスクや手袋等コロナ対策の備品を提供していただく等、市と関係を築いている。また、介護保険の認定更新の際には担当者と会って状況の説明等している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な事例や行為を確認し、行わない為の話し合いを持ちケアにつなげている。玄関の施錠については家族の意見を聞き、ご利用者の安全を第一と考え適時ロックしている。解放時ネズミやヘビなどの侵入があり季節により利用者より解放を希望しない声が上がった。	今年度、身体拘束等のリスクを把握するための調査を行った。利用者一人ひとりのケアについて身体拘束等のリスクの観点からアセスメントを行い、家族に対して結果の説明やリスクを取り除くためのケアについて説明した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎月接遇委員会にて職員の言動や対応、家族からの意見、クレーム等各施設リーダーが話し合い、施設内での虐待や不適切な対応が見過ごされないように努めている。特に言葉使いには注意を払っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度が理解できるように機会があれば外部研修に参加するようにしている。現在は利用する方はいないが必要であれば活用を進めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容については納得いただけるまで説明、確認していただいている。解約時も同様で内容理由が納得していただけるよう説明している。一部改正時は案内状を送付して説明、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にアンケート用紙を設置して誰でも自由に意見を頂けるよう配慮している。家族様ご本人様には定期的にケアプランの作成時確認させていただきサービスに反映している。	利用者の意見は、一対一の支援の際等に出た本人の訴えを聞き、職員間で共有している。家族からの意見は、意見箱以外にも家族アンケートを毎年行い、意見を聞いている。また、利用者の言葉や生活の一コマを毎日記録し、家族にお知らせするなど信頼関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングの他、気づいた時にいつでも相談できる雰囲気づくりを行い意見交換の機会を増やし話し合いにつなげている。その内容は会議録や連絡ノートを利用して全員に周知している。	日頃の業務や毎月の職員会議を通じて意見を聞いている。利用者の生活の向上につながる意見や業務改善につながる意見が多く、出された意見は複数の職員で導入について検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期契約更新時には個々の契約内容や意思の確認を行い契約を交わしている。随時勤務形態の相談、配慮している。又業務管理シートを提出して個々の働き方について見つめ直す機会となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会があれば外部研修への参加を促しスキルアップにつなげている。研修会の内容は復命書や職員会議議事録の回覧などで参加しなかった職員への波及を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のケアマネジャー協会やグループホーム協会、包括支援センター、法人内の研修会などを通じて新たな情報を得て、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み相談を受けた時より状況の確認、連絡を行い把握している。本人の意見を確認しながら行っている。担当ケアマネジャーからの情報も参考にさせていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居案内の説明、見学などを通じ丁寧に説明させていただき、ご本人の性格や相性など見極めて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時聞き取り調査にて現状と今後の支援の方向性について確認し、適切な支援が出来るよう努めている。その中で施設で出来る事、出来ない事を丁寧に伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いに協力して過ごして頂ける関係づくりを支援している。例えば食器拭きの手伝い、玄関掃き出し、花の植え替え等出来ることをお願いしている。他にも職員が手薄の時でも、利用者同士で危険なことにならないように声をかけて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活のひとこまやいしばし通信を毎月送付してご利用者の様子をお知らせしている。状態の変化がある時も随時連絡させていただき、緊急事態に備えている。通院や理髪、外出の機会がある時は出来るだけ行って頂けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	短歌を趣味としている利用者は郵送にて出品添削を受けて、展覧会に出品の機会がある。その時は見学に行くようにしている。またなじみの美容院への外出支援を行っている。	短歌を趣味としている利用者の添削や展覧会への出品の支援のほか、なじみの美容室への外出支援等を行っている。利用者の誕生日前には家族から利用者へ電話を入れていただくよう伝えるなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のリハビリやレクリエーションを通して個々の特性を考慮して実践している。合唱では合わせて歌う。ゲームではルールを守る。歩行練習では危険のないよう譲り合う等配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に情報提供を行い、住み替え後ストレスが少なく過ごせるよう支援している。転居後も面会に伺ったり家族から相談があれば伺うようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情、態度から本人の思いを聞きとるようにしている。表現できない場合は生活歴や家族からの情報なども参考にしている。	一対一の支援の際に出た言葉から本人の本音を把握し安心できる声かけをしている。また、状況にあった適語が出てこない利用者については、その意向をくみ取り一人ひとりに寄り添った支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やサービス事業者から生活歴やなじみの暮らし方、生活環境、サービスの利用の様子などを聞き取りどの様な人生を送って来られたのか理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや経過記録、温度板、ケアプラン実施記録を参考に日常の過ごし方を把握している。入浴時には身体状況を把握し情報を共有している。出来ない部分の支援に心掛け、無理強いせず、個々の能力を優先している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態の変化に対応して、それぞれの意見を集約して少しでも改善するよう取り組んでいる。家族や本人の意向も確認しながら定期的にモニタリングを行い、プランの見直し、介護度の見直しを行っている。	利用者の状態の変化は申し送りで報告し、気になる事が積み重なればアセスメントを行い、変更を検討している。状態に変化があれば家族に報告し、ケアプランの変更も報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の経過記録を記入し、特に変化があり統一介護が必要な時は連絡ノートに記入し、情報を共有している。必要に応じてケアプラン、介護度の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により通院、薬取り、訪問診療の手配等要望に応じて行っている。又、買い物や気分転換のためにドライブ、散歩など支援している。突発的なことも積極的に行うようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方から生花や野菜などの提供があり交流継続している。地元の床屋を利用して街の様子を眺め懐かしむこともある。行きつけの美容院は本人を良く知る為付き添いがなくても送迎をすれば対応していただけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を支援している。通院が困難な方は往診や訪問診療を依頼している。往診時は日頃の状態を伝え、相談している。家族様には随時報告している。受診時家族が伝えにくい細かな情報はFAXなどで事前に伝え適切な医療が受けられるように支援している。	家族支援によるかかりつけ医の受診を基本としているが、訪問診療を利用している利用者も約半数いる。家族の対応が難しい場合には、職員が対応している。受診時には本人の状況を医療機関や家族に伝えるとともに、受診後には報告を受け情報を共有するなど適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師が在中していないので法人内の看護師に相談アドバイスを受け、次につないでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は定期的に状態を確認しながら退院時の受け入れに万全を期するようにしている。必要であれば退院時のカンファレンスに出席する事もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に施設で可能な事、不可能な事を説明させていただき、重症化した場合は家族様と今後の方向性について話し合い検討している。本人や、家族の意向を考慮しながら他の施設への住み替えを検討支援している。	利用開始時に重度化した場合の事業所の対応を説明している。歩けなくなってきた時や入浴できなくなってきた時など利用者の状態が変化した際には、家族の意向を考慮した上で、特別養護老人ホーム等への住み替えを勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で緊急時の対応について学んでいる。参加できない職員も資料の配布等で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる場面を想定した避難訓練を毎月実施している。近隣の協力委員を含めた通報訓練や職員対象の通報訓練の実施、雨水時の避難行動の確認を行った。	年2回の総合訓練以外に毎月自主訓練を実施している。昼・夜、地震火災、浸水等様々な場面を想定し、避難方法・場所を検討している。同法人が運営する近隣施設と共同で風水害対策マニュアルを策定した。自治会や消防団の協力を得て避難する体制も整えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症を理解すると共に個々の性格や個性を尊重して敬意をもって対応するように心がけている。	利用者には苗字にさん付けし、利用者の嫌がることはやらない、羞恥心に配慮した言動を心がけている。接遇委員会にて、利用者に何気なく言ってしまう言葉を、人格を尊重した言葉遣いになるよう言い換えた「禁句集」を作成している。	禁句集を作成し利用者に対する言葉遣いに配慮しているが、その実践について改めて職員間で話し合うなど一人ひとりの人格の尊重に向けた取り組みを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をしっかり伺い、否定せず傾聴に努めている。会話の中から真意を汲み取り、ストレスフリーに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の心身の状態に応じてリハビリやレクリエーションへの参加を促している。ゲームや歌、頭の体操等いくつかの過ごし方を提案し、何を行うか、その日のメンバーや気分で変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備が可能な方はご自分で準備していただき、出来ない方は一緒に準備して確認しながら行っている。整理整頓ができるようにタンスにラベルを貼り収納しやすいようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に作った梅ジュースや梅干し、シソの実漬け、らっきょう漬け、干し柿など旬の食材で食卓を楽しんでいる。好き嫌いのある方には代替えを提供、行事や誕生日会などには特別メニューやリクエストメニューを準備している。テーブル拭きや食器拭きなど個々の出来ることをお願いしている。	朝、夕食の食材は業者から調達しているが、昼食は職員が買物した食材で調理提供し食に変化を加えている。誕生会にはリクエストに応じ、いなり寿司や太巻きを手作りしている。また、団子や饅頭などを利用者と一緒に作ったり、寿司をテイクアウトするなど食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に合わせ食事形態を変えている。毎日の摂取量を確認して健康管理に努めている。お茶のほかに個々の嗜好（コーヒー・乳酸菌飲料）を考慮して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じ声掛け見守り案内を行いながら支援している。リハビリでは健康体操やパタカラ体操で口腔の機能低下予防に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンシートから個々の排泄パターンを把握している。排泄行為がスムーズにすまされるよう早めの声かけや羞恥心に配慮した対応を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な誘導声掛けを行っている。利用者はリハビリパンツを使用しており、尿意がある方は出なくても便器に座っていただくなど、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトや牛乳を提供している。個々により乳酸菌飲料の摂取や服薬調整、運動、水分補給等で、出来るだけ自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴ができるようにしている。入浴日や時間の変更は個々の都合に合わせ対応している。行事等で入浴時間の変更がある時は事前に知らせそれぞれの都合に合わせている。又入浴剤を使用して全国温泉巡り企画などを行い楽しんでいただいている。	入浴は週3回午後を基本としている。拒否のある方についても職員が誘導声掛けして、日を開けずに入浴して頂いている。行事企画として様々な温泉の入浴剤を使用し入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルに合わせ自室でくつろげる環境を整えている。日中は居間でくつろげるようにテレビやビデオ、新聞、マッサージなど自由に過ごせるよう配慮している。長い昼寝をしないように適時声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表にて内容、効能、副作用など確認している。誤配防止の為準備する人、与薬する人を変えて再確認している。状態の変化は申し送りで報告して必要であれば家族や主治医に相談、指示を仰ぐこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の短歌や書道は施設内の掲示板で発表の場を設けている。又投稿などは郵送を支援している。指先を使い日用品作成（ゴミ箱・はし入れ・雑巾縫い）折り紙（季節の壁画）支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出の機会は少ないが感染症対策を取りながら通院、理髪など支援している。又不穏がある方は時々ドライブに誘うこともある。桜の時期は車窓より見物してきた。	コロナ禍により外出の機会が少なく、敷地外への外出はできないが、敷地内のテラスを散歩し、天気の良い日には日光浴を楽しんでいる。不穏がある方にはドライブに誘い、紅葉や菜の花を見て気分を変えてもらっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度を管理されている方は2名、ほとんどの方は自己管理が難しい為預かり金として1万円程度の中から職員とともに管理している。年2回家族に預かり金収支報告書として内容を確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時電話の取次ぎをしている。希望があれば郵送も支援することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節感のある飾りやお花を活け楽しんでいただいている。年間を通じ快適な空調設備を整えている。	壁には利用者が書いた短歌や習字が飾られている。毎月飾り替えを行い、季節感を作り出している。室内は広く、日中は天窓からの自然光で部屋全体が明るい。床暖房や空調、加湿器や酸素計が設置され、利用者はソファーなどで快適に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は比較的広々しており、それぞれが目的に合った過ごし方ができるよう色々なアイテムを準備し、必要に応じ提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個々が慣れ親しんだ使いやすいものを準備され、本人、家族も気兼ねなく過ごせるようにしている。	居室は広く、余裕のある造りとなっている。エアコン、洗面台、ベッド、タンス、カーテンは備え付けで、テレビや机、寝具等は使い慣れた物を持ち込んでもらっている。居室の掃除は毎日職員が行い、心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を出し、自室の確認が出来るようにしている。食卓にもネームをつけ、席に着けるようにしている。トイレの案内板をつけ自立した排泄やタンスにラベルを貼り自己管理を促している。		